

平成19年度
大学院教育改革支援プログラム

専攻横断型の 包括的保健医療職の育成

名古屋大学大学院

医学系研究科・看護学専攻

医学系研究科・リハビリテーション療法学専攻

大学全体としての位置付け(1)

- 名古屋大学の研究と教育の基本目標
(平成12年2月「名古屋大学学術憲章」)
 - (1) 創造的な研究活動によって真理を探究し、世界屈指の知的成果を生み出す。
 - (2) 自発性を重視する教育実践によって、論理的思考力と想像力に富んだ勇気ある知識人を育てる。
- 課題開発力の育成や新規分野の創成へのチャレンジ精神を養成し、国際的に通用する人を育む質の高い教育(運営の基本姿勢)

大学全体としての位置付け(2)

- 本事業は、包括的保健医療モデルを開発・推進する人材を養成

(トータルヘルスプランナー養成コース)

(1) 専攻を超えた包括的な幅広い専門知識と技術を習得する。

(2) 幅広い科学的思考法や研究企画力を養う。

大学全体としての位置付け(3)

■ 事業評価

- 国際的な観点から大学の教育・研究活動に助言を得るための国際的アドバイザリーボードを設置
- 大学院生支援
学術奨励賞・奨学金、海外研修等助成
- 定期的な事業評価と、それに基づく改善

■ 事業の継続

専攻・分野横断型の研究拠点である「ライフピア連携地域支援研究センター(仮)」の設置など、推進体制を確立

名古屋大学大学院医学系研究科の概要

保健学科

- 看護学専攻
- 放射線科学技術専攻
- 検査技術科学専攻
- 理学療法学専攻
- 作業療法学専攻

1学年定員

200名

+編入 26名

大学院医学系研究科

- 看護学専攻
- 医療技術学専攻
- リハビリテーション療法学専攻

前期課程 48名

後期課程 17名

本専攻の人材養成目的

■ 前期課程

高度な専門的知識を基に、リーダーシップを発揮し得る保健医療従事者の養成を進めるとともに、学術研究を推進する研究者・教育者の養成

■ 後期課程

21世紀における総合保健医療が真に人々の健康に寄与するようになるために、創造的な研究活動によって真理を探究し、現代の医療における諸問題を発展的に解決できる人材の養成

本学のライフトピア構想 (大幸地区)

超高齢社会に対応する教育研究拠点の形成

- (1) 生活保健医療介護モデルの構築
- (2) 高齢者のための保健医療及び介護の技術開発
- (3) これを支える新職種の人材育成を行う

チエづくり

モノづくり

ヒトづくり

医工連携

産官学連携

大幸地区再開発



本専攻の取組み

【本専攻の取組み】

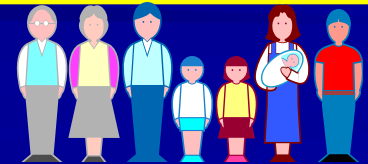
少子高齢社会を包括的に支える健康増進モデルを
開発・推進する医療人の育成



【新たな大学院教育構想】

トータルヘルスプランナー (THP) の養成

地域社会の包括的な健康増進モデルの開発・推進を担う人材育成



トータルヘルスプランナー(THP)養成コース

【教育目標】

1. 対象の身体・心理・環境の側面に対して、健康問題をライフサイクルの視点から総合的に捉える
2. 対象のニーズに基づき、必要な医療情報・福祉情報を正確かつ迅速に収集・分析する
3. 専門性の発揮と関連職種との連携によって健康的な生活を整えるプランを提供する

【修了生の人材像】

1. 多職種協働型の在宅医療・介護システムづくりを推進するコーディネーター
2. 個人・家族・社会の健康を包括的に支える学際的アプローチの企画・管理者
3. ライフサイクル対応型の健康増進を担う保健医療・行政職
4. 保健医療の実践改革につながる臨床疫学研究と健康増進モデル開発を担う研究者

THP養成コースの概要

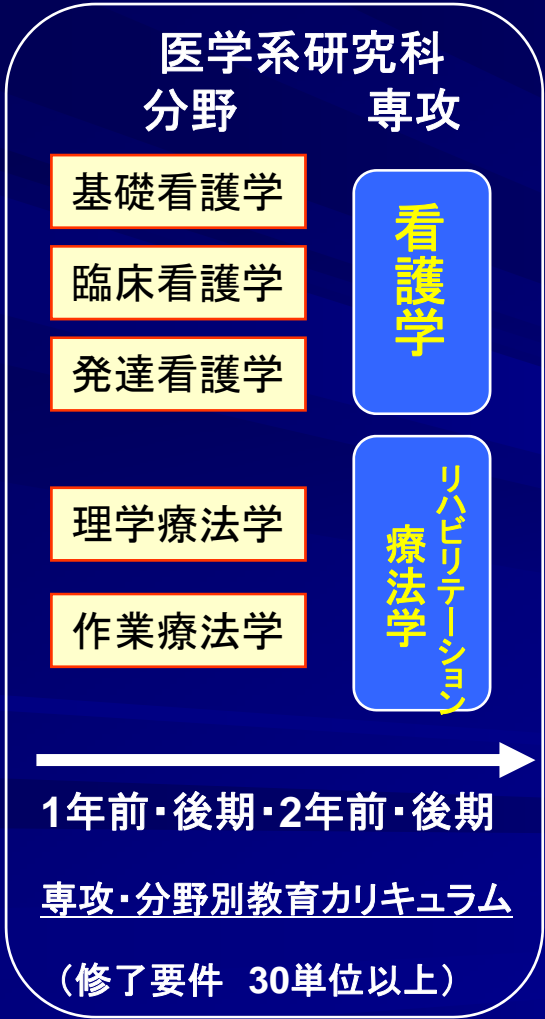
【カリキュラムの概要】

- 前期(修士)課程の修了要件30単位に加え、THP共通科目(8単位)を追加履修した者を、学内認定する

保健学科共通科目	6	THP概論(1年前期)	2
専門科目特論など	10	THP特論(1年後期)	2
専門科目セミナー	2 +	THP演習(2年前期)	2
専門科目課題実習	2	THPセミナー(1・2年)	2
専門科目特別研究	10		
<hr/>		<hr/>	
30単位		8単位	

特色① 専攻横断型の教育体制

THP共通カリキュラム



看護学専攻、リハビリテーション療法学専攻、医学部寄附講座(老年情報学)、愛知県、学内外部局、その他と連携した横断型教育組織

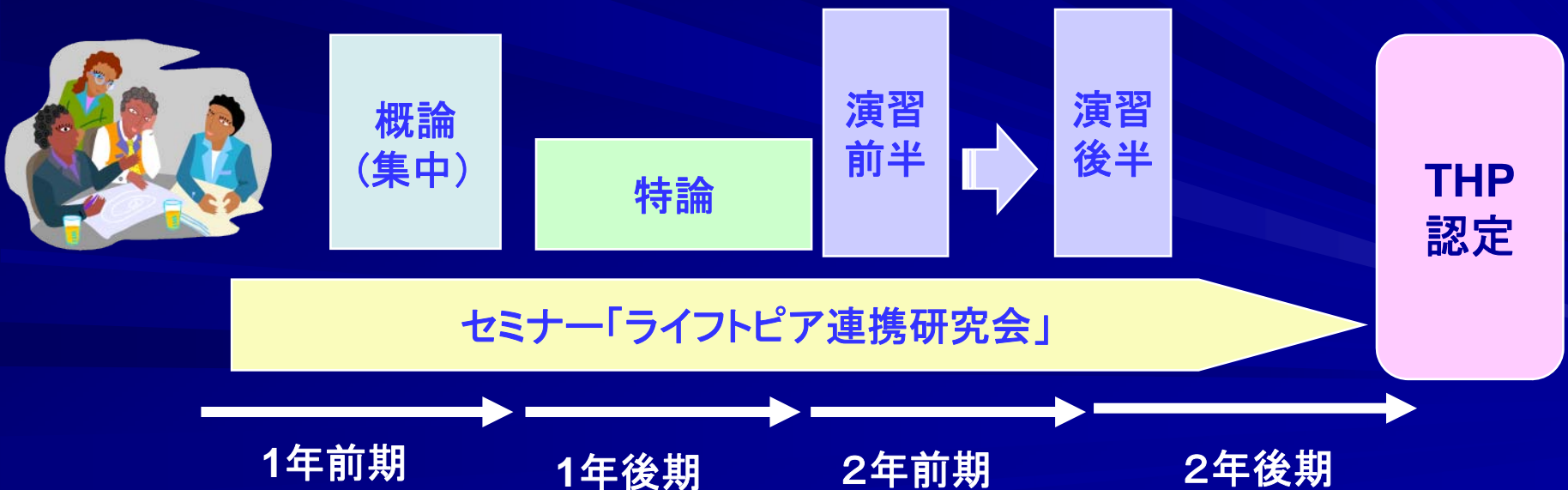
特色② 系統的な段階的教育プロセス

概論：保健医療行政、疫学統計学、システマックレビュー

特論：THPに要する専門的知識（在宅看護、在宅リハビリ）

演習：多職種カンファレンスにより連携スキルの修得

セミナー：「ライフピア連携研究会」に参加し、分野の異なる多様な研究に触れながら研究・実践活動を発展させる



特色③-1 学際研究に触れ幅広い科学的思考を養う

ライフトピア連携研究会(月1回)の開催

第1回(平成18年5月24日) **大西丈二(老年情報学寄付講座)**

「臨床判断:重度認知症患者が食べられなくなったときに」

第2回(平成18年6月28日) **山田純生(理学療法学)**

「軽症脳卒中の発症リスク要因としての運動習慣(能力)に関する調査研究」

第4回(平成18年9月27日) **奈良間美保(看護学)**「THP養成コースの紹介」

堀容子(看護学)「主介護者の健康支援システム構築に関する研究」

第10回(平成19年5月23日) **葛谷雅文(医学部老年科)**

「高齢者を理解し支援するために ～包括評価の重要性～」

第11回(平成19年6月27日) **渡邊正(県がんセンター愛知病院・緩和ケア特別顧問)**

「緩和医療におけるトータルケア」

第12回(平成19年7月18日) **長谷和徳(工学研究科福祉工学)**

「筋骨格系の数理モデルに基づいた身体動作の力学分析」

特色③-2 学際研究に触れ幅広い科学的思考を養う

ライフピア連携地域支援研究センターでのプロジェクト

1. **THP人材育成** (担当: 奈良間、榊原)
2. **がん緩和 ケア** (担当: 安藤、前川)
3. **地域高齢者ヘルスプロモーション**
 - 地域高齢者ヘルスプロモーション研究室 (担当: 堀、榊原)
 - 遺伝子多型診断研究室 (担当: 近藤、浜島)
 - 健康長寿研究室 (担当: 野田、古池)
4. **次世代育成支援** (担当: 奈良間、浅野、鈴木)
5. **高齢者QOL支援**
 - 排泄ケア支援研究室 (担当: 鈴木重)
 - 高齢者フィットネス研究室 (担当: 山田)
 - 住環境実験室 (担当: 鈴木國、清水)
6. **医療情報解析応用**
 - 医療画像情報高度応用研究室 (担当: 伊藤、島本)
 - 医用画像数理解析研究室 (担当: 池田)

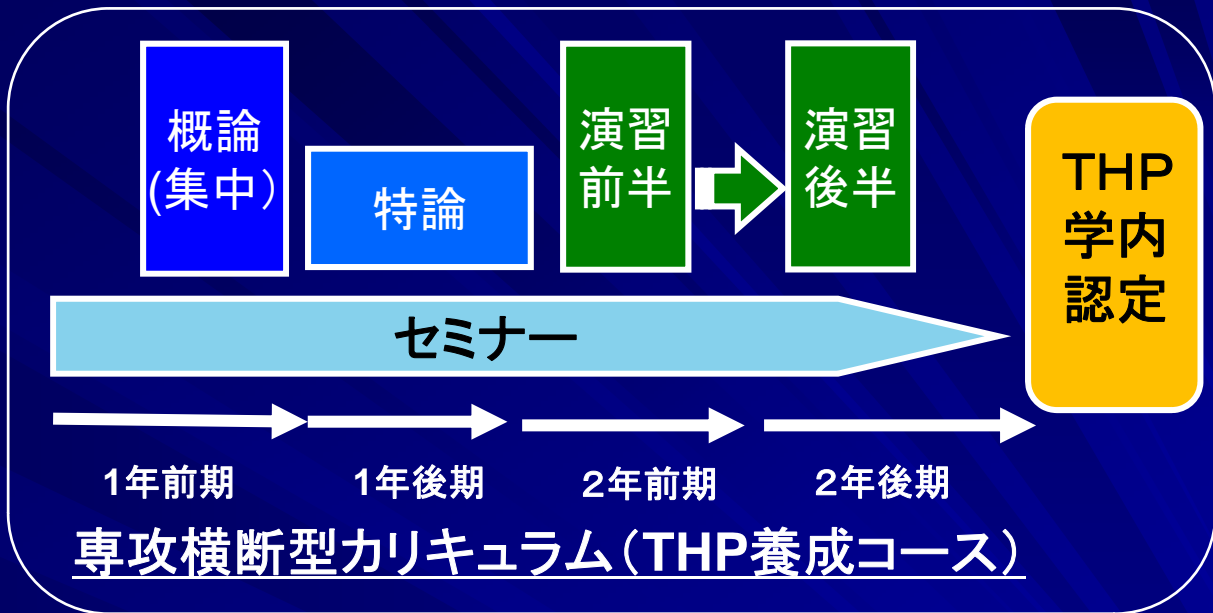
医学系研究
専攻

看護学

リハビリ
テーション
療法学

専攻・分野別
カリキュラム

履修プロセス
の概念図



【教育改革の特色】

専攻・学内外の枠を超えた教育体制
段階的教育プロセス
学際研究に触れる機会
地域住民の反応に触れる機会

【教育改革による成果】

包括的支援実践家の輩出
教育全体の活性化
学生の主体的学習促進
学際研究の推進(後期課程)

愛知県

企業

THP運営委員会
(専攻横断型教育組織)

医学部
寄附講座

学内他部局

ライフピア連携地域支援研究センター(仮)

トータルプランナー 養成コースを新設

総合的な医療知識を持ち、高齢者の介護施設などでリーダー的な役割を果たす人材を養成しようとして、名古屋大医学系研究科は新年度から、看護学と医療技術学、リハビリテーション療法学の各博士前期課程に看護、リハビリ、作業療法などを融合した「トータルヘルスプランナー」の養成コースを新設する。

名大医学部保健学科のある大幸地区を超高齢社会に対応する教育研究拠点にしようという「ライフトピア構想」の一環。講義では、出産時や終末期を含めた在宅医療の

支援方法や高齢者リハビリの援助計画の立案、チ

名古屋大医学系研究科 医療全体を見渡し 必要なケア見極め

イフトピア構想の一環として行われる月一回の研究会に参加し、自分の専門以外の教員とも幅広く交流することで視野を広げる。修了後は、地域における保健・行政職、訪問看護ステーションなどでのケアマネジャー、病院における退院調整役などとして活躍できる人材を育てる。

チーム医療の在り方などについて学ぶ。また、愛知県職員が、地域保健医療や介護政策の動向について説明する。教員らの研究会や、ライ

選択コースで、定員は約二十人。大学院での同様の養成コースは珍しいという。担当の榊原久孝教授は「医療分野での専門分化が進んでいるが、専門性を生かしつつ、全体を見渡して、何が必要なケアなのかを見極める目を養いたい」と話している。

本プログラムの準備・実施状況

- 平成16年度 総長による「大学運営の基本姿勢」においてライフピア構想提示
- 平成17年度 名古屋大学ライフピア研究会設置
(医学科、保健学科、工学部、愛知県、企業など)
- 平成17-18年度 THPカリキュラム検討の準備
- 平成18年度 大幸ライフピア連携研究会開始
- 平成19年度 THPコース開設(本年度41名受講)
- 平成20年度 ライフピア連携地域支援研究センター開設

専攻・分野横断型の教育と研究の推進